

津市防災だより

令和5年10月1日発行
令和5年 第2号
防災室
☎229-3104 FAX223-6247

災害への備えには自助・共助・公助という考え方があります。災害発生時には公的機関による「公助」が行われますが、大規模災害が発生した場合、公的機関が被災することや、救助が必要な人が多くなり、対応が限界に達すると想定されます。そのため、災害発生時には自分の命は自分で守る「自助」や地域

の人たちと協力する「共助」が、災害を乗り越える上で必要不可欠となります。

今回は大災害に備えるため、自助として「個人でできる防災対策」、共助として「地域での防災対策」についてご紹介します。今後の防災対策にお役立てください。

自助～個人でできる防災対策～

「自助」は防災対策の第一歩です。自身と家族の命を守るため、できることから始めましょう。

非常持ち出し袋と備蓄の確認

非常持ち出し袋とは、飲食物や医薬品、日用品などを入れておき、避難する時に最初に持ち出すもので、被災直後から救援活動が開始されるまでの間、被災者の命を繋ぐものです。避難の妨げにならない程度のものを、家族構成を考えて用意しましょう。

備蓄は食料品・生活必需品を少し多めに購入し、賞味期限を考慮して期限の近いものから消費し、消費した分を買い足す「日常備蓄(ローリングストック法)」を心がけましょう。




防火対策

大規模地震発生時には、ガス管の破損やストーブなどの暖房器具が原因となった火災、電気器具の故障や破損したケーブルからの出火、電気が復旧したことによる通電火災などが起こり得ます。

避難する際には、自宅のガスの元栓を閉め、ブレーカーを切るよう心がけましょう。また、普段使用していない電気機器のコンセントを抜いたり感震ブレーカーを設置したりして通電火災を防ぐための対策を講じましょう。

<感震ブレーカーの種類>

分電盤タイプ (内蔵型・後付け型)	コンセントタイプ	簡易タイプ
		
分電盤に内蔵されたセンサーが揺れを感知し、ブレーカーを落として電気を遮断します。	コンセントに内蔵されたセンサーが揺れを感知し、コンセントから電気を遮断します。	ばねの作動や重りの落下によりブレーカーを落として、電気を遮断します。

家庭用燃料満タン習慣

大規模災害発生時には、車中での避難生活や停電時の暖房器具使用などのために、家庭用燃料(ガソリン・軽油・灯油)を求める人が増加し、入手が困難になります。

車の燃料メーターが半分程度になったら満タンにする、灯油であれば暖房用に余分に買って置いておくなど、災害時の燃料確保について日頃から心がけておきましょう。

